

方言の理解

高市知誉 23B20996 東京工業大学物質理工学院

1. はじめに

文の中に方言が使われているとき、方言を知っている人しかその意味が伝わらないものであるのかどうかを明らかにする。

2. 方法

SNSなどを通して友人に、方言を交えた例文をいくつか用意し、その方言がどういう意味であるかを、選択肢で答えてもらい、どのようにその方言をとらえているかを確認する。

3. 結果

結果として分かったことは、一度は聞いたことのような、片づけるの意味で使われる「なおす」や捨てるの意味で使われる「なげる」の言葉と、実際に聞いたことない人がほとんどであると思われる、調子に乗っているの意味で使われる「いちびる」やかさぶたの意味で使われる「つの」などの言葉を比較したとき、前者のパターンでは約80%の人が意味が分かるのに対し、後者のパターンでは約30%の人々がちゃんと意味を理解していることが分かった。「つの」の誤答については、（あざ）、（たんこぶ）、（きず）などかさぶたに近いニュアンスを持った言葉が多くあった。「なおす」については片づけるに近いニュアンスの言葉が多くあった。

4. 考察

さきほど述べた結果から考察をしてみる。まず文献からわかるようにすべての方言を理解することはできず、特に文末の言葉は理解度が低い。最初にかさぶたの意味で使われる「つの」という言葉から考えてみる。出した例文は「転んでしまって、つのできた」というものであり、誤答で多くあった「たんこぶ」という解釈もできそうである。「つの」といわれたときに、みんながイメージするつのは頭から生えてくるものであり、このイメージをもとに転んでできるものであり頭にできるものといえば「たんこぶ」を想像するのではないかと考察した。二つ目に考察する言葉はみなさんにあまりなじみのない、調子に乗っているという意味の「いちびる」である。いちびるの誤答はさまざまであり、この誤答に共通している点については例文の意味としておかしくないという点である。この二つから皆さんは方言を状況や文字から意味を読み取っているということです。

5. おわりに

方言がわからなくても人はある程度の文とその言葉の関係しているものなどを考えて、よほど聞いたことのない方言以外は意味が分かることが判明した。